

# '72 夢の球宴

1972年夢の球宴、プロ野球オールスター第一戦は、7月20日東京球場で行われました。

1回の表、全セの攻撃、王四球で歩いて無死満塁と早くも先制のチャンス。バッターは長島、ピッチャー成田。投げた、打った、ショート正面のゴロ、6~4~3とわたってあえなくダブルプレー。しかしこの間三塁からロバーツがかえって1点を先取。その裏、全パも反撃、ヒットで出塁した福本が盗塁「一億円の足」を披露すれば張本も左前にヒット。バッターは最多出場を誇る野村、ピッチャー谷村。初球をすかさず左中間に二塁打して同点。さらに3回、一塁に張本をおいて野村がホームラン。全パは3対1と試合をリードしました。5回表負けじと田淵がホームランを打てば、6回裏には大杉も打ちかえます。

試合は実力のバが力の差をみせ、人気のセを圧倒、しかし、もう一つ盛上がりを欠いた今年のオールスター戦でした。

## 四日市ぜんそく訴訟

# 裁かれた空

今日も、子供達は白い煙の下を学校に通う。49人もの公害病認定患者をかかえる三重県四日市市立塩浜小学校。この学校の児童の朝は乾布まさつと、うがいで始まる。公害に耐える体力づくりだという。悲しい日課だ。

港のほとりにならびたつ

科学の誇る工場は

平和を守る日本の

希望の希望の光です……

——塩浜小学校 元校歌——

昭和36年にこの校歌はつくられた。この年、塩浜地区第1コンビナートが全面操業を開始した年でもあった。大コンビナートはそのたたまいからしても、まさに新しい時代の息吹きであり、子供達だけでなく四日市市民にとっても「希望の光」に思われた。しかし、操業が進むにつれこの「科学の誇る工場」は異様なにおいと共に白い煙を吐き、海を汚し住民の生活を次第にむしばんでいった。

この頃から、コンビナートのすぐ近くの磯津で、ぜんそく発作に悩む人々が増えた。漁業の町磯津は、いつしか公害の町になってしまった。現在、人口約2,600人のこの町に104人もの公害認定患者が住む。昭和42年、ついに住民は耐えきれず、裁判に勝てば煙は止まる事を願って、空を汚しつづける6社の企業を相手どって訴訟を起こした。

4年11カ月もの長い審理の末、ようやく判決の日を迎えた。しかしその間、原告9人のうち2人が死亡、公害認定患者は増えつづけ、現在900人余りにのぼり、死者も40人以上を数える。複数の企業により犯された空、その空の下に住む人間の環境を命を破壊した大気汚染。7月24日、津地方裁判所四日市支部。判決は、予想通り、原告の勝訴。勝訴。原告団の報告に、つめかけた住民は喜びの色をかくせない。しかし闘いはこれからだという。この日も、煙は止む事はなかった。そして、確実に、1カ月に20人の割合いで増えつづける認定患者。

原告の1人野田之一さんは、この裁判で、この判決で、どう四日市が変わるか、どう日本が変わるか、それが一番の問題だ。と語った。

複数の企業責任が強く問われたこの判決をたてに、煙が止まる闘いをこれから進めるという原告団。塩浜地区コンビナートの真中にある塩浜小学校の児童は、新しく変わった校歌の練習にいとまがない。校歌が変わった現実には、子供達の脳裏から消え去る事は決してないだろう。